

科目名	多国籍企業論特講	担当者	ウチボリ 内堀	ヒロノリ 敬則	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代の多国籍企業をめぐる政治経済的および経営的環境を理解するとともに、多国籍企業の基本的な戦略ロジックと組織の特徴を把握することで、日本企業のグローバル化の方向性と方策を探ることを目的とする。</p> <p>現代の国際市場は多くの人が信じているほどグローバル化されておらず、市場の部分統合と各国政府規制が併存する、いわゆるセミ・グローバリゼーションの状態にある。ここでは依然として各国・各地域市場の文化的、制度的、地理的、経済的隔たりが大きな影響を与えている。こうしたことを踏まえると単純でフラットなグローバル化戦略には大きな限界があり、今一度、国家や文化を超えることの影響の重大性に立ち返った国際経営戦略の再構築が必要である。さらに、日本企業は「技術で勝っていても事業で負ける」ことが少なくなく、より市場志向を高めた経営戦略の構築が求められている。本講座は上述のような課題について理論的、実証的に接近することを目的としている。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 多国籍企業論についての専門性を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 多国籍企業をめぐる諸理論や経営課題について把握し、そのなかで個別企業がとっている行動の背景を概観できるようになる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修として、基本教材の精読ならびに積極的な関連文献サーベイを行う。なお、1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 基本的には文献サーベイによる学修であるので、受講者による積極的なアプローチを期待する。</p>		
スケジュール	<p>草稿に対する指導者のコメントに基づいて何度かの原稿修正を行うことになるが、このプロセスをできるだけ早くはじめること。特に第一回目レポートのやり取りで、求められる基本的なレベルや記述要領を掴むこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の十分な理解とともに、関連文献のレビューと事例の収集が適切になされているかを基準とする。
	平常評価	20%	草稿提出から最終稿の受理に至るまでの取り組みの姿勢を総合的に評価する。
履修者への要望	<p>各期のレポートの草稿提出はできるだけ早く行い、双方向コミュニケーション、指導期間を確保すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： パンガジ・ゲマワット著 教材名： 『コークの味は国ごとに違うべきか』（文藝春秋，2009年） ISBN-13： 978-4163713700 1,905円+税
	現在の国際経済ならびに市場はフラットなグローバル化に向かっているのではなく、今後も統合化と各国政府規制が併存するセミ・グローバリゼーションの状況にとどまると予測される。また、中国、インド、ブラジル、ロシア、南アフリカなどの新興国の影響力が一段と増している。そうしたなか、多くの多国籍企業は新興国市場開拓に注力するのはもちろんのこと、その国際的拠点配置やネットワークの優位性を活かして最大限の効率と効果を獲得できるようにグローバル戦略と組織構造の再編成を急いでいる。本書は、制度や文化などの国際ビジネス環境の多様性に改めて着目し、それを制約要因と捉えるだけでなく、それらをより積極的に活用する方法についての多くの有益な示唆を提供している。
参考図書	諸上茂登，藤沢武史，嶋正編『国際ビジネスの新機軸—セミ・グローバリゼーションの現実の下で—』（同文館出版，2015年）ISBN-13： 978-4495385118
履修上のポイント	基本教材は世界的に著名な文献であり、現代の国際ビジネスの構造と戦略を体系的に学ぶことができる。
レポート課題 1	ゲマワット教授の CAGE 分析，AAA 分析などを参考としながら、今日の多国籍企業が直面している経営環境の特徴とその競争優位戦略のオプションについて論述すること。 <b>留意点：</b> できるだけ具体的な企業事例を交えたレポートを執筆すること。
レポート課題 2	日系多国籍企業が抱える重要な経営課題について、一つのテーマに絞って詳しく論じること（各自設定した論題を明記すること）。 <b>留意点：</b> 教材の要約レポートに終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を参照しながら学術的総論文として執筆すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 諸上茂登著 教材名： 『国際マーケティング講義』（同文館出版，2013年）ISBN-13： 978-4495646110 2,300円+税
	この教材は多国籍企業、とくに日系多国籍企業のマーケティングの戦略と現状と課題について考察したものである。「技術では勝っているのに事業で負ける」という現状を脱するためのさまざまな方策を検討している。
参考図書	経済産業省『通商白書』，日本貿易振興機構『ジェトロ世界貿易投資報告』の各年版。 いずれも web で閲覧可。最新版は以下参照。 <a href="http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2017/whitepaper_2017.html">http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2017/whitepaper_2017.html</a> <a href="https://www.jetro.go.jp/world/gtir/2017.html">https://www.jetro.go.jp/world/gtir/2017.html</a>
履修上のポイント	多国籍企業のマーケティング行動の基本的なロジックについてよく理解し、日系多国籍企業のとるべき国際マーケティング戦略の方向性について考察すること。また、参考図書で指定した白書のなかから、任意の個別地域・業種のデータを参照しつつ、最新動向の把握を意識すること。
レポート課題 1	多国籍企業がもちうるマーケティング上の競争優位について論述すること。 <b>留意点：</b> 教材の要約レポートに終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を参照しながら学術的小論として執筆すること。
レポート課題 2	日系多国籍企業のマーケティング上の課題を一つ取り上げ、それについて詳しく論じること（各自の論題を明示すること）。 <b>留意点：</b> 教材の要約レポートに終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を参照しながら学術的小論として執筆すること。